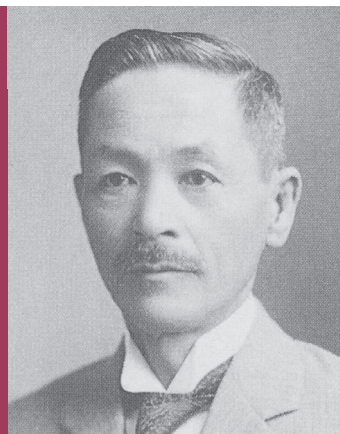


# 香村 小録 小伝

Koroku Kōmura



香村小録氏は、慶応2年（1866年）10月金沢市に出生、明治25年7月東京帝国大学工科大学採鉱冶金科を卒業された。その後直ちに農商務省に勤務、当時の製鉄事業調査会の事業の一部であった耐火煉瓦の調査研究に従事したが、明治26年9月野呂景義氏の推薦により、官職を退き当時わが国における民間唯一の製鉄所であった釜石鉱山田中製鉄所に入り、同所の改善拡張のため、非常な苦心努力を払われた。明治29年より翌30年にわたり1年余りアメリカ及び欧州各国の鉄鋼業を視察して帰国したが、氏の卓越した見識は、官営時代外人技師を招き、また政府の力をもってしてもなお経営困難であった同製鉄所を近代的な一大製鉄所に育成し、明治37、38年戦役に際しては多量の鉄鋼材を製造して貢献した。それ以降、同製鉄所はますます堅実な発展を遂げた。大正4年2月に氏は博士会の推薦により工学博士の学位を授与された。

大正6年3月、田中鉱山株式会社の創立に当たり、氏は常務取締役役に推され、その後大正13年7月同社は組織を変更し、釜石鉱山株式会社となったのに伴い、引続き取締役となり、さらに昭和9年官営製鉄所と合同して日本製鉄株式会社が設立されるに当たり、氏は釜石事業を代表してその取締役になり、この大会社運営の任務を分担し、氏の本来の使命を大成するためその余生を捧げられる等、長年にわたりわが国製鉄業発展のため努力された。

日本鉄鋼協会に関しては、当初よりその創始者の一人であったが、大正4年2月創立総会が開催され最初の理事となり、さらに大正9年より2年の間、野呂、今泉両氏に次いで会長の重任に就かれ、その後引続き前会長として本会の発展に貢献した。特に昭和7年には、香村賞資金として多額の私財を本会に寄贈し、これによって、鉄鋼の理論または作業に関する有益な発見、発明あるいは新案を得た者を表彰する途を開き、後進の指導、研究の奨励に対し、偉大な効果を挙げている。

なお、氏は政府の鉄鋼調査会、工業品規格調査会等に委員として関与し、長年の経験を生かし、終始一貫努力を続けられたが、昭和13年3月4日に逝去された。享年73才。